仮説1

感謝メッセージは
送り手の情報があるときの方が、ないときよりも
受け手の社会的迷惑行為の抑制意図を促進する

〔送り手の情報〕

感謝メッセージ → 有 ＞ 無 → 社会的迷惑行為の抑制

より高まるのか・・・？

結果　仮説1

二要因分散分析

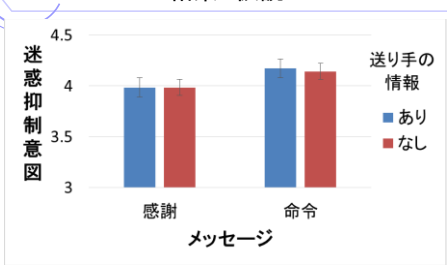
従属変数　社会的迷惑行為の抑制意図

独立変数　メッセージ(感謝・命令)
送り手の情報(あり・なし)

有意差は認められなかった

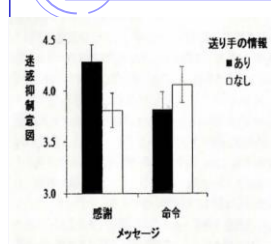
・メッセージの主効果	F=1.77　p=.186
・情報の有無の主効果	F=.014　p=.907
・交互作用	F=.012　p=.913

結果　仮説1

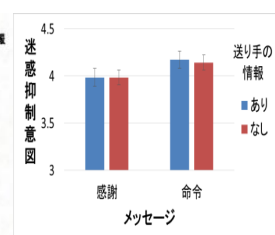


実験条件別に見た社会的迷惑行為
の抑制意図の平均値

実験条件別に見た社会的迷惑行為の抑制意図の平均値(比較)



油尾(2012)の結果



追試結果

結果　仮説1

感謝メッセージは
送り手の情報があるときもないときも
受け手の社会的迷惑行為の抑制意図には関係しない

〔送り手の情報〕

感謝メッセージ → 社会的迷惑行為の抑制

結果　仮説1+

感謝 ←→ 命令

平均値に差がみられなかった
(感謝　3.98　命令　4.16)

質問は適切だったのか・・・？

社会的迷惑行為の抑制意図　質問項目

1，ほかの自転車を動かして空いたところに自分の自転車をとめる ←-.352**→ 2，別の空いている駐輪場を探して自分の自転車をとめる

**p<.01

仮説2

感謝メッセージが呈示されるとき、
送り手の情報は受け手の互恵性規範を媒介して
社会的迷惑行為の抑制意図を促進する

互恵性規範は本当に生じているのか・・・？

感謝メッセージの解釈の違いを統制するため
個人特性を統制する

自尊心　一般的信頼　内的統制 Locus of Control

結果　仮説2

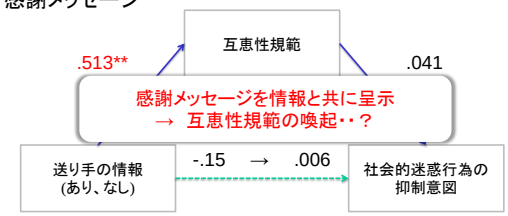
媒介分析

SPSS用のマクロINDIRECTを使用

統制変数　自尊心　一般的信頼　Locus of Control

結果　仮説2

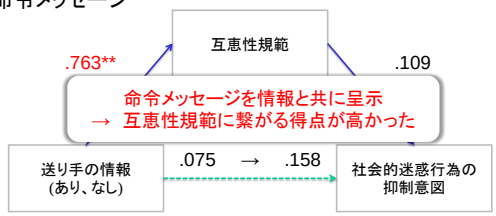
感謝メッセージ



**p<.01

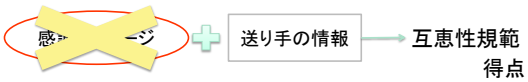
結果　仮説2

命令メッセージ



**p<.01

結果・考察　仮説2



まとめ Ⅰ

仮説1・仮説2
どちらも油尾(2012)とは違う結果

○疑問点

1、 社会的迷惑行為の抑制意図を問う質問は本当に適切だったのか

2、 感謝・命令メッセージどちらの条件でも、送り手の情報を呈示すればお返しをしたいという感情が生じたのに、社会的迷惑行為の抑制意図につながらなかったのはなぜか

3、 感謝・命令メッセージ条件間でお返しをしたいという感情に差が生じなかった理由はなにか